

参考資料1

大阪府地域保健医療推進懇話会設置要綱

（設置）

第一条 大阪府医療計画に基づく二次医療圏内における保健医療施策及びそれに関連する事項について、保健医療関係者等（以下「関係者」という。）が意見交換、懇談等を行い、地域保健医療の推進・向上を図ることを目的として、「懇話会等行政運営上の会合に関する取扱要領（平成24年10月23日付け人事第2152号）」に基づき、次に掲げる懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

- 一 医療・病床懇話会
- 二 歯科保健懇話会
- 三 薬事懇話会
- 四 救急懇話会
- 五 在宅医療懇話会
- 六 精神医療懇話会

（所掌事務）

第二条 懇話会は、関係者の間で情報を共有し、必要に応じ関係者の意見の収集を行う。

- 2 保健所長及び大阪市担当局長（以下、「保健所長等」という。）は、収集した意見を必要に応じ医療圏内に設置された大阪府保健医療協議会へ具申する。

（名称）

第三条 懇話会は、第一条に掲げる名称に懇話会が設置された二次医療圏の名称を冠するものとする。

（組織）

第四条 懇話会は、懇話会に必要な最小限の構成員で組織する。

- 2 構成員は、目的に応じて、適切かつ幅広い人選に努めることとする。
- 3 構成員の任期は、2年とし、再任することができる。ただし、補欠の構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第五条 懇話会は、保健所長等が招集し開催する。

- 2 懇話会の進行は、会長を定めて行うことができる。
- 3 構成員に支障あるときは、代理人が出席することができる。
- 4 保健所長等が必要と認めるときは、懇話会の構成員以外の者の出席を求めることができる。

（謝礼金）

第六条 構成員、構成員の代理人及び保健所長等が必要と認める構成員以外の者（以下、「構成員等」という。）の謝礼金の額は、日額六千円（交通費込み）とし、歳出科目は報償費とする。

- 2 構成員等のうち公の経済（国、地方公共団体）に属する常勤の職員である者に対しては支給しない。

（庶務）

第七条 懇話会の庶務は、各懇話会を担当する保健所及び大阪市担当局（以下、「保健所等」という。）において行う。

（委任）

第八条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、保健所等が定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この要綱は、平成二十四年十一月一日から施行する。

（経過措置）

- 2 この要綱の施行の日から平成二十六年三月三十一日までの間に第四条の規定により任命される懇話会の構成員（補欠の構成員を除く。）の任期は、同条第三項本文の規定にかかわらず、任命の日から平成二十六年三月三十一日までとする。

附 則

（施行期日）

- 1 この要綱は、平成二十七年六月一日から施行する。

（経過措置）

- 2 この要綱の施行の日から平成二十八年三月三十一日までの間に第四条の規定により任命される懇話会の構成員（補欠の構成員を除く。）の任期は、同条第三項本文の規定にかかわらず、任命の日から平成二十八年三月三十一日までとする。

ただし、地域医療構想策定の進捗状況に応じて、その任期の延長については別途協議する。

附 則

（施行期日）

- 1 この要綱は、平成二十八年四月十九日から施行する。

（経過措置）

- 2 この要綱の施行の日から平成三十年三月三十一日までの間に第四条の規定により任命される懇話会の構成員（補欠の構成員を除く。）の任期は、同条第三項本文の規定にかかわらず、任命の日から平成三十年三月三十一日までとする。

附 則

この要綱は、平成三十年四月一日から施行する。

参考資料 2

※都道府県連携拠点医療機関に望まれる機能

疾患名	都道府県連携拠点として望まれる機能
統合失調症	① クロザピンによる治療が可能 ② 修正電気けいれん療法(mECT)が可能
認知症	① 認知症治療を専門とする医師等の育成が可能(研修会開催の場合は自院スタッフのみ対象は不可) ② 自院内で高度な検査等(例 SPECT、MIBG心筋シンチグラフィ、ダットスキャン等)による鑑別診断が可能
児童・思春期精神疾患(発達障がい含む)	児童思春期の精神科入院機能(専用病棟・病床を保有)
うつ	修正電気けいれん療法(mECT)が可能
PTSD	PTSDについての専門的治療を行っており、PTSD治療に関わる医師等の育成が可能(研修会開催の場合は自院スタッフのみ対象は不可)
アルコール依存症	・府内の医療機関に対して、専門プログラムの普及とそれに伴う人材育成が可能 ・困難事例の入院治療が可能
薬物依存症	・医療機関に対して、専門プログラムの普及とそれに伴う人材育成が可能 ・困難事例の入院治療が可能
ギャンブル依存症	・府内の医療機関に対して、専門プログラムの普及とそれに伴う人材育成が可能
てんかん	重症例に対応(てんかん重積発作等にも対応等)が可能 ※院内の他科(例 救命救急センター、脳神経外科、小児科、内科等)との連携により対応可能な場合も対象となります。
高次脳機能障がい	高次脳機能障がいの治療や支援にかかわる医師等の育成が可能(研修会開催の場合は自院スタッフのみ対象は不可)
摂食障がい	重篤な身体状態の悪化にも対応可能(BMI15未満に対応可能)・入院治療が可能
災害医療	DPATとしての役割を持ち、府と連携しての活動が可能
発達障がい(成人)	発達障がいの確定診断、疾病教育に関わる医師等スタッフの育成が可能(研修会開催の場合は自院スタッフのみ対象は不可)
妊産婦のメンタルヘルス	・院内の精神科医と産婦人科医が連携しての医療提供が可能 ・市町村や保健所等との連携が可能

※地域連携拠点医療機関に望まれる機能

疾患名	地域連携拠点として望まれる機能
統合失調症	相談機能があり、地域生活を支えるために必要な支援を行う機関との連携体制により支援ができる
認知症	・認知症疾患医療センター、あるいは認知症疾患センターと同等の機能(専門医療相談、鑑別診断、身体合併症・周辺症状の急性期対応等)がある。 ・初期集中支援チームが関与した対象者の認知症早期診断、困難事例の精神科医療面の支援ができる
児童・思春期精神疾患(発達障がい含む)	・児童思春期を専門とする医師が診察 ・確定診断が可能
うつ	うつ病に特化したプログラム(認知行動療法、リワークプログラム等)を実施
PTSD	専門的治療(持続エクスポージャー療法、EMDRなど)が可能
アルコール依存症	・専門プログラム(疾病教育・ミーティング・認知行動療法等)を実施 ・支援団体や自助グループと連携した支援ができる
薬物依存症	・専門プログラム(疾病教育・ミーティング・認知行動療法等)を実施 ・支援団体や自助グループと連携した支援ができる
ギャンブル依存症	・専門プログラム(疾病教育・ミーティング・認知行動療法等)を実施 ・支援団体や自助グループと連携した支援ができる
てんかん	専門的治療が可能
高次脳機能障がい	① 国基準診断 ② 診断書作成 ③ リハビリ対応 ④ 精神症状対応可能(入院) ⑤ 精神症状対応可能(通院)
摂食障がい	・身体状況悪化に対応可能 ・身体科と連携しての診療可能
災害医療	府と連携して、被災した精神科医療機関へ支援を行うことが可能
発達障がい(成人)	確定診断、疾病教育が可能
妊産婦のメンタルヘルス	地域の産婦人科機関と連携しての診療が可能

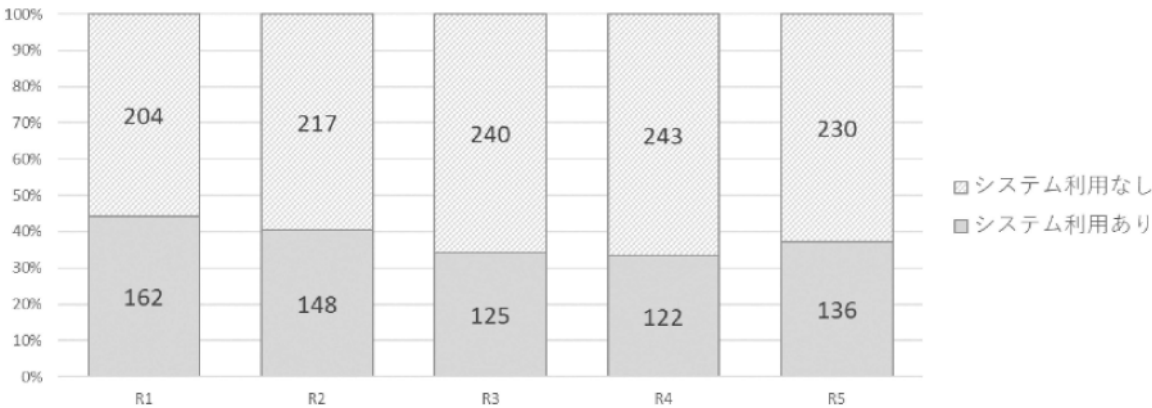
【夜間・休日 精神科合併症支援システムについて】

1. システム対応件数

(1) 日数別システム利用件数

(単位: 日)

	R1	R2	R3	R4	R5
総 日 数	366	365	365	365	366
システム利用あり	162	148	125	122	136
システム利用なし	204	217	240	243	230

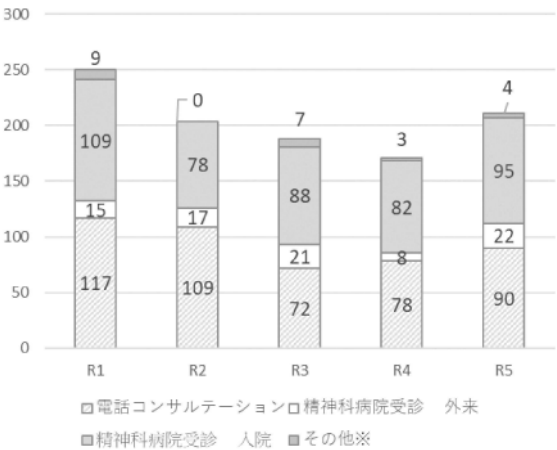


1

(2) システム利用件数

(単位: 件)

		R1	R2	R3	R4	R5
電話コンサルテーション		117	109	72	74	90
精神科病院受診	外来	15	17	21	8	23
	入院	109	78	88	82	94
その他※		9	0	7	4	4
合 計		250	204	188	168	211



※「その他」(同システムで別ケース対応中)の2つめの当番病院への連絡状況

(単位: 件)

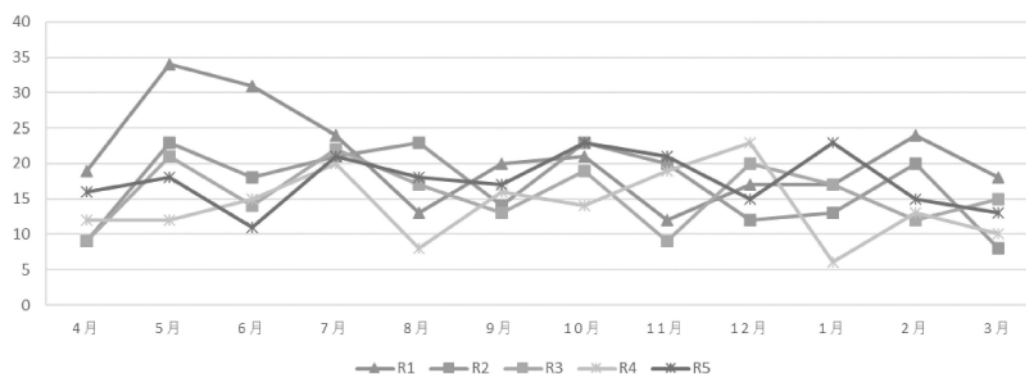
	R1	R2	R3	R4	R5
2つ目の当番病院でコンサル	3	0	3	2	1
2つ目の当番病院に受診	2	0	1	0	2
2つ目の当番病院への連絡なし	4	0	3	2	1
2つ目の当番病院も別ケース対応中	0	0	0	0	0
合 計	9	0	7	4	4

2

(3) 月別システム利用件数

(単位:件)

	R1	R2	R3	R4	R5
4月	19	9	9	12	16
5月	34	23	21	12	18
6月	31	18	14	15	11
7月	24	21	22	20	21
8月	13	23	17	8	18
9月	20	14	13	16	17
10月	21	23	19	14	23
11月	12	20	9	19	21
12月	17	12	20	23	15
1月	17	13	17	6	23
2月	24	20	12	13	15
3月	18	8	15	10	13
合 計	250	204	188	168	211

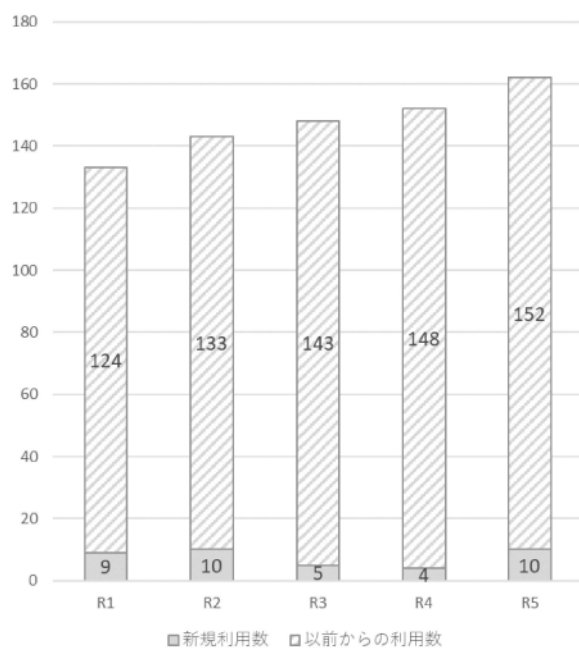


3

2. 二次救急医療機関等・合併症支援病院の状況

(1) 二次救急医療機関等のシステム利用医療機関

【システム利用経験ありの医療機関数】
(R1~R5 累計)



【年度別利用回数】

利用回数	R1	R2	R3	R4	R5
1回	32	44	30	30	39
2回	14	12	21	12	11
3回	7	9	4	4	4
4回	6	5	8	5	5
5回	3	4	4	2	
6回	3	3		1	3
7回	1	1		3	
8回	3	1	2	1	2
9回					1
10回			1	1	
11回	1		1	1	1
12回	1				1
13回					
14回	2			1	
15回	2		1		2
16回		1			
17回					1
18回					
19回					
20回		1			

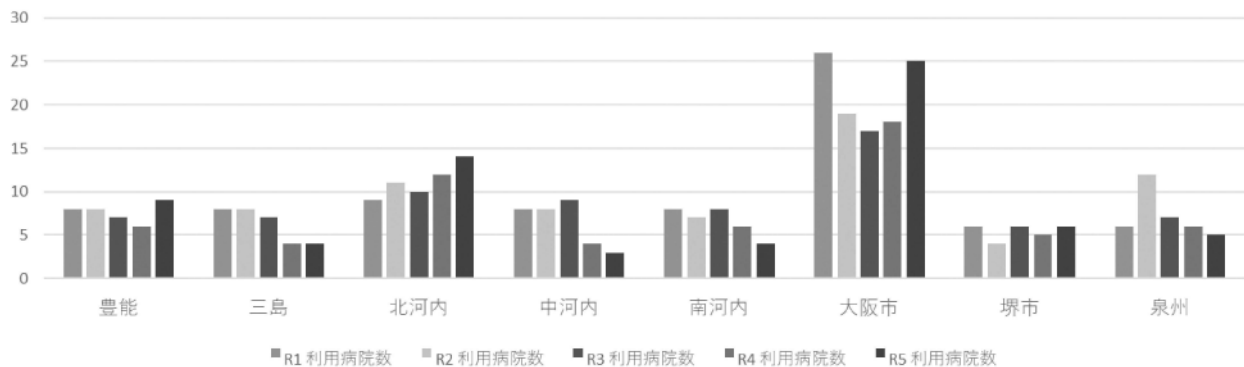
4

(2) 二次救急医療機関等のシステム利用医療機関数(二次医療圏別)

	R1			R2			R3			R4			R5		
	利用 病院数	圏域 病院数	利用 割合	利用 病院数	圏域 病院数	利用 割合	利用 病院数	圏域 病院数	利用 割合	利用 病院数	圏域 病院数	利用 割合	利用 病院数	圏域 病院数	利用 割合
豊能	8	21	38%	8	21	38%	7	21	33%	6	21	29%	9	22	41%
三島	8	19	42%	8	19	42%	7	19	37%	4	18	22%	4	17	24%
北河内	9	36	25%	11	36	31%	10	38	26%	12	39	31%	14	40	35%
中河内	8	17	47%	8	17	47%	9	17	53%	4	17	24%	3	17	18%
南河内	8	19	42%	7	19	37%	8	20	40%	6	20	30%	4	19	21%
大阪市	26	93	28%	19	93	20%	17	93	18%	18	93	19%	25	91	27%
堺市	6	21	29%	4	21	19%	6	21	29%	5	21	24%	6	21	29%
泉州	6	24	25%	12	24	50%	7	23	30%	6	23	26%	5	22	23%
総計	79	250	32%	77	250	31%	71	252	28%	61	252	24%	70	249	28%

「利用病院数」：非救急病院等を除く

「圏域病院数」：救急告示病院数から精神科病院を除いた数



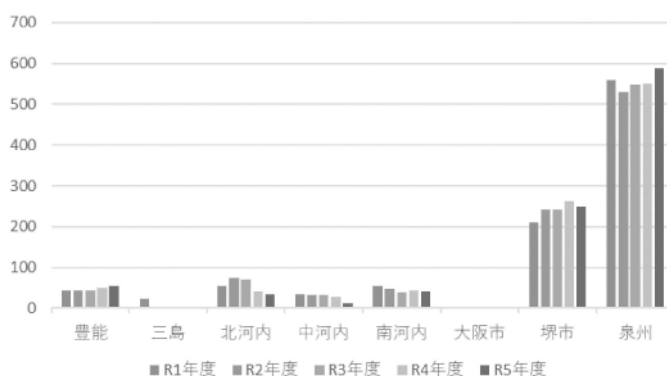
5

(3) 合併症支援病院対応状況

【輪番回数(二次医療圏別)】

(単位:回)

圏域	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
豊能 (3)	44	44	43	50	55
三島 (1)	24	4	0	0	0
北河内 (1)	55	74	70	41	34
中河内 (1)	34	33	33	27	12
南河内 (3)	55	47	39	43	42
大阪市 (0)	0	0	0	0	0
堺市 (2)	211	241	243	262	248
泉州 (5)	560	531	548	551	587
総計 (16)	983	974	976	974	978



【システム対応件数 (医療機関別)】(単位:回)

圏域	病院名	R1	R2	R3	R4	R5
豊能	さわ病院	9	5	4	1	5
	小曽根病院	6	5	2	4	1
	榎坂病院	2	1	1	1	6
三島	藍野花園病院	13	1	0	0	0
北河内	ねや川サトリウム	2	6	3	1	2
	東香里病院	10	6	5	1	—
中河内	小阪病院	1	1	2	0	4
	国分病院	5	5	3	4	—
南河内	丹比荘病院	5	2	1	4	2
	結のぞみ病院	5	5	3	6	8
	青葉丘病院	1	4	0	—	—
	大阪さやま病院	4	1	0	0	0
堺	阪南病院	63	67	66	57	80
	浅香山病院	3	3	2	1	1
泉州	浜寺病院	13	10	5	2	10
	久米田病院	44	30	26	35	39
	水間病院	5	5	3	2	1
	木島病院	47	34	39	33	39
	七山病院	12	13	23	16	13
合 計		250	204	188	168	211

6

(4)精神科病院受診(外来・入院)となった際の搬送元と搬送先(二次医療圏別)

n=117

令和5年度		搬 送 先 病 院（合併症支援病院）									隣接区域への搬送	
		豊能 (合併症支援病院 3)	三島 (1)	北河内 (1)	中河内 (1)	南河内 (3)	大阪市 (0)	堺 (2)	泉州 (5)	総計	搬送数	割合
搬送元病院	豊能(利用病院数6)	5		1				5	7	18	5	28%
	三島 (1)								2	2	0	0%
	北河内 (7)	1						1	6	8	0	0%
	中河内 (1)					1		1	3	5	1	20%
	大阪市 (23)	2		1	1	3		7	9	23	14	61%
	南河内 (3)					1		4	7	12	12	100%
	堺市 (4)	1			1	2		12	13	29	27	93%
	泉州 (3)							4	16	20	20	100%
総 計		9	0	2	2	7	0	34	63	117	79	68%

*網掛けは隣接区域

7

3. 患者の状況

(1)性別・年代別内訳

年代	R1				R2				R3				R4				R5			
	男性	女性	不明	合計	男性	女性	不明	合計	男性	女性	不明	合計	男性	女性	不明	合計	男性	女性	不明	合計
10代	4	10	0	14	5	8	0	13	2	4	0	6	2	16	0	18	9	18	0	27
20代	11	22	0	33	15	28	0	43	6	22	0	28	13	17	0	30	9	32	0	41
30代	19	25	0	44	19	21	0	40	3	28	0	31	8	18	1	27	17	24	0	41
40代	30	25	0	55	17	20	0	37	14	13	0	27	9	11	0	20	17	16	0	33
50代	23	17	0	40	16	12	0	28	22	20	1	43	18	12	0	30	10	14	0	24
60代	10	9	0	19	11	9	0	20	11	8	0	19	8	5	0	13	7	6	0	13
70代	13	5	0	18	9	6	0	15	10	11	0	21	6	8	0	14	10	3	0	13
80代	6	9	0	15	3	2	0	5	2	3	0	5	6	6	0	12	2	4	0	6
90代	0	1	0	1	0	2	0	2	4	0	0	4	0	0	0	0	1	2	0	3
不明	1	2	8	11	0	0	1	1	1	0	3	4	1	1	2	4	1	1	8	10
合計	117	125	8	250	95	108	1	204	75	109	4	188	71	94	3	168	83	120	8	211

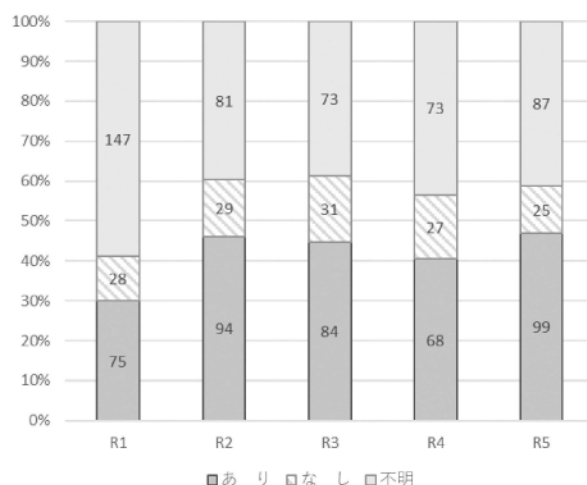


8

(2) 精神科受診歴等と受診者の精神症状

<受診歴の有無>

	R1	R2	R3	R4	R5
あ り	75	94	84	68	99
な し	28	29	31	27	25
不明	147	81	73	73	87
合 計	250	204	188	168	211



<受診者の精神症状>

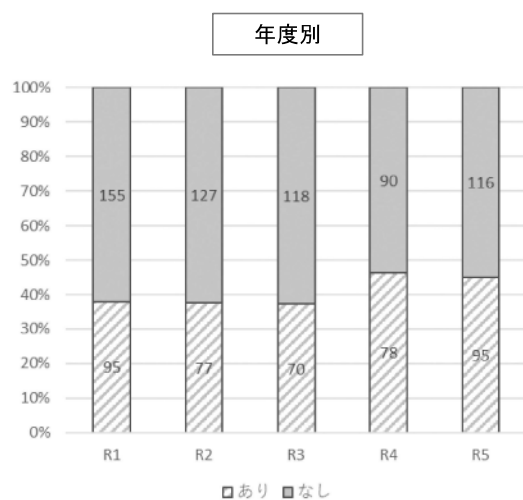
複数回答

	R1	R2	R3	R4	R5
意識障害	22	14	13	14	32
徘徊	3	3	2	4	1
けいれん	4	1	2	3	4
幻覚	14	19	23	15	13
妄想	12	14	21	12	8
昏迷	7	1	6	7	2
奇異行動	6	9	8	6	8
興奮	24	30	31	18	20
錯乱	5	8	3	7	7
そう	1	5	2	1	0
抑うつ	41	27	35	36	53
不安・焦燥	24	17	23	20	28
過換気	3	3	2	3	4
パニック発作	3	3	6	4	2
睡眠障害	12	7	11	13	11
過食	0	0	0	0	0
拒食	4	0	1	7	5
自殺企図	40	29	29	37	48
自殺念慮	32	34	32	32	55
大量服薬	22	17	34	18	45
自傷	11	8	7	13	12
暴力	3	7	5	1	5
器物破壊	0	0	0	0	0
薬切	0	2	0	0	0
副作用	1	4	0	1	1
その他	0	8	3	2	7

9

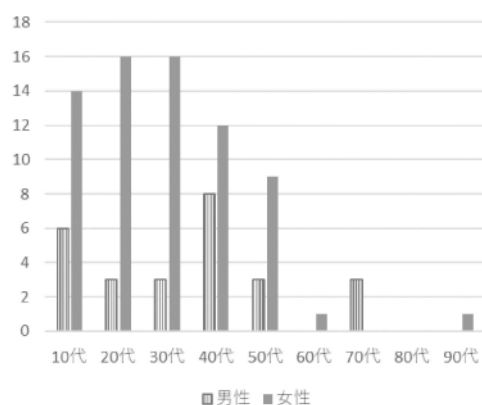
(3) 自傷等の有無

	R1	R2	R3	R4	R5
あり	95	77	70	78	95
なし	155	127	118	90	116
合計	250	204	188	168	211



「自傷等あり」性別・年代別内訳 (R5)

n=95 男性:26 女性:69



10

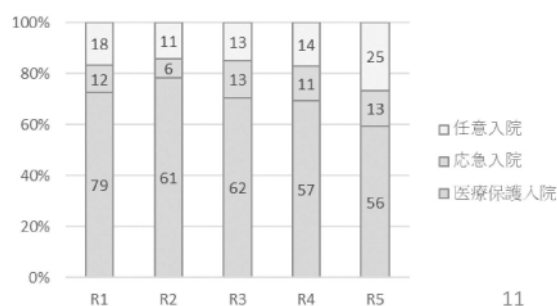
(4) 受診結果と入院形態

〈受診時の精神疾患分類〉

病 名	R1	R2	R3	R4	R5
F0 症状性を含む器質性精神障害	11	5	4	6	5
F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	12	18	8	13	9
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	28	19	23	17	11
F3 気分（感情）障害	55	37	42	39	68
F4 神経症性障害	8	10	11	4	10
F5 生理的障害等	1	1	0	1	0
F6 成人のパーソナリティおよび行動の障害	3	1	5	1	5
F7 知的障害	0	1	3	5	1
F8 心理的発達の障害	2	0	3		2
その他	4	3	10	4	6
合 計	124	95	109	90	117

〈受診後の入院形態〉

	R1	R2	R3	R4	R5
医療保護入院	79	61	62	57	56
応急入院	12	6	13	11	13
任意入院	18	11	13	14	25
合 計	109	78	88	82	94

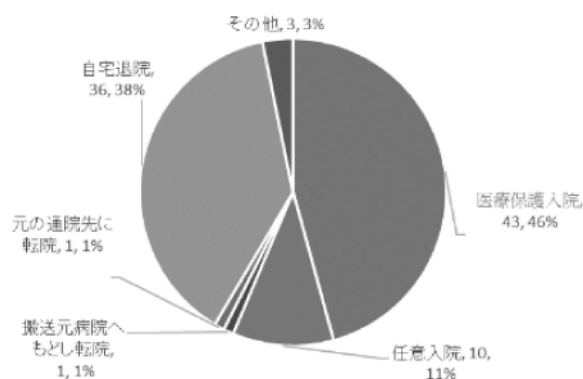


(5) 入院一週間後の転帰の状況

(単位: 件)

	R1	R2	R3	R4	R5
医療保護入院	58	40	56	46	43
任意入院	5	6	6	7	10
精神科転院	1	2	0	0	0
3次救急へ転院	1	0	3	1	0
搬送元病院へもどし転院	1	3	3	2	1
元の通院先に転院	0	0	0	0	1
他の身体科病院へ転院	3	1	0	1	0
自宅退院	38	26	19	25	36
死亡	1	0	1	0	0
その他	1	0	0	0	3
合 計	109	78	88	82	94

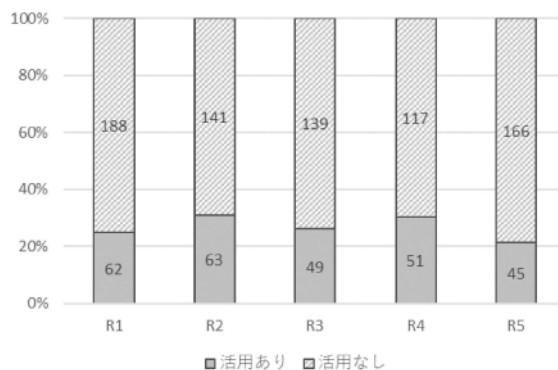
<R5 転帰内訳>



4 システム運用状況

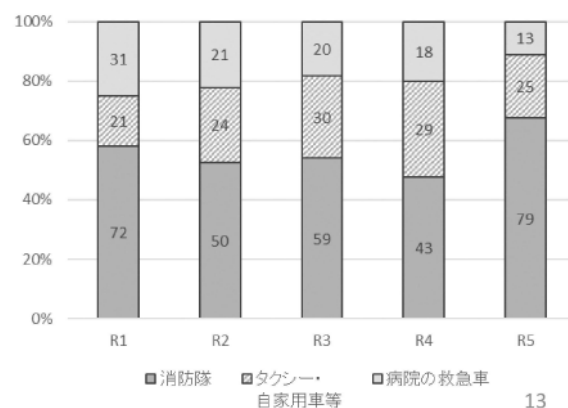
(1) 一般科医のサポート活用状況

	R1	R2	R3	R4	R5
活用あり	62	63	49	51	45
活用なし	188	141	139	117	166
合計	250	204	188	168	211



(2) 搬送方法

	R1	R2	R3	R4	R5
消防隊	72	50	59	43	79
タクシー・ 自家用車等	21	24	30	29	25
病院の救急車	31	21	20	18	13
合 計	124	95	109	90	117



(3) 依頼から受入れ可否を伝えるまでの時間

所要時間	コンサル	受診 (外来・入院)	小計
5分以内	12	14	26
5～10分	37	18	55
10～15分	14	13	27
15～20分	7	20	27
20～30分	7	18	25
30～1時間	14	22	36
1時間～1時間半	1	7	8
1時間半～2時間	1	2	3
2時間～2時間半			0
2時間半～3時間		1	1
3時間～		1	1
不明	1	1	2
総計	94	117	211

